

施策	2104 公共交通体系の充実						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	無	受益者負担	余地有	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市民全般						
施策が目指す姿	高齢者等の交通弱者の日常生活における移動手段の確保及び公共交通空白地域の解消を目指し、コミュニティバス（ふれあいバス）・デマンドタクシー（蔵タク）など便利な公共交通機関の充実等を図る。						
成果指標	ふれあいバス年間利用者数...5年間（平成25年度～平成29年度）で295,000人（現状値194,732人） 蔵タク年間利用者数...5年間（平成25年度～平成29年度）で62,000人（現状値56,034人）						
目 標 達 成 状 況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	成果指標1 [人]	予定	204,000.00	219,000.00	237,000.00	273,000.00	295,000.00
		実績	194,732.00	210,127.00			
	成果指標2 [人]	予定	49,000.00	57,500.00	59,000.00	60,500.00	62,000.00
		実績	56,034.00	58,029.00			
		単位コスト	4.92	5.54			
	成果指標3 []	予定					
		実績					
		単位コスト					
	成果指標4 []	予定					
実績							
	単位コスト						
トータルコスト (千円)	予定	273,988	292,776	0	0	0	
	実績	275,669	321,478			0	
内 部 評 価	貢献度	上位施策の目標指標「公共交通の充実に対する市民満足度」を42.6%から60%に向上させるためには、利便性の向上が必要であり、本単位施策の目標達成による貢献度は高い。					
	達成状況	蔵タクは達成したが、ふれあいバスについては利用者や地域の要望等を踏まえて、路線の見直し等の改善を実施したが、年間利用者数は未達となった。					
	課題	ふれあいバス及び蔵タクの内容周知がまだまだ不十分と思われることから、積極的なPRを行うとともに、利用状況を分析し、利便性の向上にむけた見直しを行う必要がある。					
	取組方針	地域説明会、出前講座等を積極的に開催しPRに努めるとともに、医療機関等多くの利用が見込める施設に配慮した路線の見直しを行い、利用者数の増加を図りたい。					
外 部 評 価	ふれあいバスの利用状況は、達成状況の成果指標よりかなり低いと思われる。いまだに空車状態のバスをよく見かける。 今後も利用者のニーズに対応した（学校・商業施設・病院等）、更なる路線の見直しが必要である。 また、同じ停留所であっても行き先の違う路線があり、利用者が戸惑うことがある。停留所において行き先地図や、わかりやすい時刻表表示に改善する必要がある。						
単 位 施 策 達 成 の た め の 事 務 事 業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	116801	蔵タク運行事業費				79,156	100
	116701	ふれあいバス運行事業費				242,322	96

事 様式 1

栃木市事務事業評価表

平成 26 年度

会計	一般	款項目	020113	予算事業コード	116701	事業区分	02	政策的事業	新規/その他	2	その他	基本施策		単位施策	
事業名	ふれあいバス運行事業費										主	2104	暮らしやすい都市の創出	公共交通体系の充実	
担当部課 係・担当チーム名	生活環境部 交通防犯課 公共交通対策担当 公共交通対策チーム						担当者	戸恒 隆志		従					
事業の性質	2	自治事務	根拠法令等	栃木市コミュニティバス運行補助金交付要綱・道路運送法				事業期間	H23 ~ H29 年度		全体事業費 (人件費除)	1,554,201	千円		
事業の概要	(事業完了(事業期間のない事業は平成31年度)までに、誰(何)を、どうい方法で、どうしたいのか。対象、手段の記入) 地域公共交通総合連携計画に基づき、高齢者等の交通弱者の日常生活における移動手段の確保及び公共交通空白地域の解消を目指して、ふれあいバスを運行する。 【主要事業】						達成目標	(事業完了(事業期間のない事業は平成31年度)の目標) ・高齢者等の交通弱者における日常生活の足として定着させる。 ・本格運行により更なる利用促進策を検討し、利用者を増加させる。							
							成果目標	ふれあいバス年間利用者数...5年間(平成25年度~平成29年度)で295,000人 (現状値194,732人) 蔵タク年間利用者数...5年間(平成25年度~平成29年度)で62,000人(現状値56,034人)							

単位：千円、人	平成25年度決算額	平成26年度決算見込	平成25年度		平成26年度							
事業費・指標の推移	国庫支出金	0	0	事業の内容 その成果 ・ふれあいバスの試行運行 (寺尾線、市街地循環線、部屋線、市街地北部循環線、真名子線、金崎線、大宮国府線、皆川樋ノ口線、藤岡線) ・運行経費に対する補助 ・運行実績の評価・検証 ・存廃及び運行内容の検討		【事業の内容】 ・出前講座等による利用促進のためのPR ・ふれあいバスの本格運行(寺尾線、市街地循環線、部屋線、市街地北部循環線、真名子線、金崎線、大宮国府線、皆川樋ノ口線、藤岡線、岩舟線) 岩舟線は、H26.11月より運行開始 ・運行経費に対する補助 ・運行実績の評価・検証 ・運行内容の検討・見直し 【成果】年間利用者数 210,127人						
	県支出金	881	2,511									
	地方債	0	0									
	その他特財	4,903	0									
	一般財源	203,361	232,311									
	事業費 a	209,145	234,822									
	人件費 b	7,500	7,500									
減価償却費 c	0	0										
総事業費 a+b+c	216,645	242,322	指標名	算出方法	単位	事業の事後評価	妥当性	コスト削減の余地	受益者負担	上位貢献度	類似事業の有無	成果向上の余地
結果指標 1	194,732.00	210,127.00	利用者数	毎日の利用者数を集計(H26目標値：219,000人)	人	妥当	無	余地有	有効	無	有	
結果指標 2												

事業改善計画	(改善内容とその効果を具体的に記入) ・運行ルートやダイヤの見直し等の利用促進策を検討し、利用者増による運賃収入を増加させることにより、安定的なふれあいバスの運行を目指す。					

事後評価備考						
--------	--	--	--	--	--	--

事

様式 1

栃木市事務事業評価表

平成 26 年度

会計	一般	款項目	020113	予算事業コード	116801	事業区分	02	政策的事業	新規 / その他	2	その他	基本施策		単位施策		
事業名	蔵タク運行事業費										主	2104	暮らしやすい都市の創出		公共交通体系の充実	
担当部課 係・担当チーム名	生活環境部 交通防犯課 公共交通対策担当 公共交通対策チーム						担当者	飯塚 亨		従						
事業の性質	2	自治事務	根拠法令等		栃木市デマンドタクシー運行補助金交付要綱・道路運送法				事業期間	H23 ~ H29 年度		全体事業費 (人件費除)	461,287		千円	
事業の概要	(事業完了(事業期間のない事業は平成31年度)までに、誰(何)を、どうい方法で、どうしたいのか。対象、手段の記入) 地域公共交通総合連携計画に基づき、高齢者等の交通弱者の日常生活における移動手段の確保及び公共交通空白地域の解消を目指して、蔵タクを運行する。 【主要事業】							達成目標	(事業完了(事業期間のない事業は平成31年度)の目標) ・高齢者等の交通弱者における日常生活の足として定着させる。 ・本格運行により更なる利用促進策を検討し、利用者を増加させる。							
	成果目標	ふれあいバス年間利用者数...5年間(平成25年度~平成29年度)で295,000人 (現状値194,732人) 蔵タク年間利用者数...5年間(平成25年度~平成29年度)で62,000人(現状値56,034人)														

単位：千円、人	平成25年度決算額	平成26年度決算見込	事業の内容 その成果			事業の内容 その成果		事業の内容 その成果		事業の内容 その成果		事業の内容 その成果		事業の内容 その成果		事業の内容 その成果						
国庫支出金	0	0	平成25年度 ・説明会等の開催 ・利用者登録の促進 ・蔵タクの試行運行 ・運行経費に対する補助 ・運行実績の評価・検証 ・存廃及び運行内容の検討 地域説明会及び出前講座等を開催し利用促進を図った。37回(754名)			平成26年度 【事業の内容】 ・出前講座等による利用促進のためのPR ・利用者登録の促進 ・蔵タクの運行 ・運行経費に対する補助 ・運行実績の評価・検証 ・運行内容の検討・見直し ・H26.10月から岩舟地域の運行を開始 【成果】 年間利用者数 58,029人 出前講座等実施回数 26回(501名)		事業の内容 その成果		事業の内容 その成果		事業の内容 その成果		事業の内容 その成果		事業の内容 その成果		事業の内容 その成果				
県支出金	882	0																				
地方債	0	0																				
その他特財	0	19,472																				
一般財源	37,927	52,184																				
事業費 a	38,809	71,656																				
人件費 b	7,500	7,500																				
減価償却費 c	0	0	指標名		算出方法		単位		事業の事後評価		妥当性		コスト削減の余地		受益者負担		上位貢献度		類似事業の有無		成果向上の余地	
総事業費 a+b+c	46,309	79,156	1日当り利用者数	年間利用者数÷運行日数(H26目標値：235人/日)		人/日		妥当		無		適正		有効		無		有				
結果指標 1	230.00	238.00	利用登録者数	利用登録者数(H26目標値：15,000人)		人		妥当		無		適正		有効		無		有				
結果指標 2	13,620.00	15,915.00																				

事業改善計画	(改善内容とその効果を具体的に記入) ・利用促進のためのPRや利便性の向上を図り、利用者増による運賃収入を増加させることにより、安定的な蔵タクの運行を目指す。														
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事後評価備考															
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--